

## 第3学年保健体育科学習指導案

日時 平成27年11月19日（5校時）  
学級 金ケ崎町立金ケ崎中学校3年3.4組  
3組女子15名4組女子15名 計30名  
授業者 教諭 高橋美知留

### 1 単元名

保健分野 健康な生活と病気の予防  
薬物乱用と心身の健康 （新しい保健体育 東京書籍）

### 2 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領の保健分野、内容（4）ウにある「喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為」に関する学習である。

本単元では、薬物乱用について、覚醒剤や大麻を取り上げ、摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きることを理解できるようにする。

また、薬物乱用は、個人の心身の健全な発達や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることを理解できるようにする。さらに、このような行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを理解できるようにする。

#### (2) 生徒について

ア 本単元の事前アンケート（1，2，3事前アンケート、4，5，6 6月に実施した生活状況調査より）

質問事項	肯定的回答の割合(%)	
	とても	やや
1. 自分の健康について興味や・関心がありますか。	32.2	51.6
2. 朝ご飯を毎日食べていますか。	96.7	3.2
3. 毎日の生活の中で、イライラしたりすることがありますか。	6.5	51.6
4. 学校生活は充実していますか。	56.7	36.6
5. 生活のリズムは整っていますか。	40.0	36.6
6. 家庭での生活は楽しいですか。	60.0	23.3

表から、自分自身の健康について興味・関心は84%と高いが、生活リズムの質問には23%が否定的な回答をしている。知識・理解としての健康的な生活は理解しようとしているものの、実生活に反映しているとはいえない状況である。また、「毎日の生活の中でイライラしたりすることがありますか」の問いに対しては、57%がとてもある、ややあると回答している。

## イ 学習アンケート（保健体育の授業について 3年3、4組 27年6月実施）

質問事項	肯定的回答の割合(%)	
	とても	やや
1. 学習課題が明示されていますか。	89.3	10.7
2. 授業を通して、何について学習するかがわかりますか。	82.1	17.9
3. 授業での先生の説明する内容はわかりやすいですか。	75.0	25.0
4. 授業における板書の内容はわかりやすいですか。	64.3	35.7
5. 授業中の課題や宿題の内容は、自分の力で解くことができますか。	64.3	35.7
6. 学習課題に対して振り返る活動を行っていますか。	67.9	28.6
7. 保健体育の授業に意欲的に取り組んでいますか。	78.6	21.4
8. 運動が得意ですか。	25.0	39.3
9. 授業に関して、わからないことやできないことを友人や先生に聞いたり、調べたりすることができますか。	32.1	53.6

表から、概ね肯定的な態度で保健体育の授業にのぞんでいることが分かる。しかし、運動に対する有用感「8 運動が得意ですか」の問いから肯定的な回答をしている生徒は64.3%にとどまっており、運動に対して35%が否定的な回答をしていることが分かる。

## ウ 授業の様子

本時の授業を行う3年3、4組の生徒は、明るく運動能力の高い生徒が多い集団である。部活動等で多くの成果を上げたことも自信のひとつになっている。体育学習では教科リーダーを中心として、規律ある学習を進め、より高い技能の習得に向けて積極的に活動に取り組んでいる。反面、保健学習においては、課題意識を持たせる工夫の足りなさからか、個人でもグループ活動でも課題解決に向けて意欲的に学習に取り組む生徒は多いとは言えない現状である。また、アンケートの9にあるように、「授業に関して、わからないことやできないことを友人や先生に聞いたり、調べたりすることができますか。」の問いに対して、85.7%が肯定的な回答をしている。このことについては、場の設定により聞いたり、調べたりする状況を意図的・計画的に指導過程に位置づけていることから肯定的な回答であると推察される。しかし、生徒が自発的に、課題解決のために友人や先生に聞いたり調べたりしているかについては、今後検証が必要となるところではある。

## (3) 指導について

中学生の時期は、「子供世界」から「大人世界」へと、大きく足を踏み入れる時期である。知的な能力も高まり、自立心も強くなる。しかし、社会的な経験不足や責任ある立場に基づいた判断ができないこともある。したがって、周囲の大人が適切な距離を保って見守るとともに、必要に応じて積極的な指導を行うことが重要となる。

このような発達の特徴から、本単元では、正確な知識の理解と習得にとどまらず、思春期特有の行動や考え方が薬物乱用という危険行動に結び付かないよう、自分を大切にしたい気持ちや、様々な人間関係の中で正しい判断や行動選択を行い、それらを維持していくための力を育てる必要がある。

本校の研究テーマ「課題解決力を育てる学習指導のあり方」に沿って、各学習活動において聞き合う活動を取り入れ、実際の生活場面でどうしたらよいかの自己決定を導き出し、目標とする「課題解決力を身につけた生徒」の育成を図りたい。

### 3 単元の指導目標

健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。

### 4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
健康な生活と疾病の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、個人の健康を守る社会の取組について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活の関わりを理解している。

### 5 単元の指導・評価計画 (17 時間)

時	学習内容	観点			評価規準
		関	思	知	
1	健康の成り立ちと病気の発生要因	○			健康の保持増進のためには、一人一人の行動を取りまく環境が関係していることに関心をもつ。
2	食生活と健康		○		健康の保持増進のために、日常生活をふり返り、自分の課題を見つけ生活を見直している。
3	運動と健康			○	健康の保持増進のために日常生活において適切な運動をすることが大切であることがわかる。
4	休養・睡眠と健康		○		健康を保持増進するためには、休養を日常生活に適切に取り入れることが大切であることを理解し、疲労回復に有効な方法を考えることができる。
5	生活習慣病の予防-1	○			生活習慣病に興味を持ち、どのような生活習慣と関係があるかを知ろうとする。
	生活習慣病の予防-2			○	生活習慣病を予防するために、望ましい生活習慣と定期検診が大切であることを理解する。
6	喫煙の害と健康	○			喫煙がもたらす健康被害の内容を知り、現在の禁煙や分煙の現状を調べようとする。
7	飲酒の害と健康		○		アルコールが心身の働きに与える影響や健康被害について知り、自分自身のアルコールとのかかわり方を考えようとしている。
8	薬物乱用と健康			○	薬物乱用が身近な問題になっていることを知る。
9 本時	薬物乱用の社会への影響	○	○		薬物乱用は自らの心身に与える重大な被害を与えるばかりでなく、社会的にも大きな影響を及ぼすことを理解する。また、薬物乱用に至るまでの個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することを理解し、どうすればよいかを考える。
10	喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処	○			喫煙・飲酒・薬物乱用を開始してしまうきっかけに関心を持ち、手を出さないための効果的な対策を知ろうとする。

11	感染症と病原体	○			感染症が病原体の感染によっておこる病気であることを知り、感染する原因や予防について知ろうとする。
12	感染症の予防			○	感染症の要因とその予防方法について理解し、知識を身につけている。
13	性感染症の予防			○	性感染症の症状や原因を知り、その予防方法などを知ろうとする。
14	エイズの予防	○	○		H I V感染症の状況や感染予防方法を知るとともに、感染者とともに支え合っている社会づくりの必要性に気づく。
15	保健・医療機関の利用			○	地域には、人々の健康の保持増進や疾病予防の役割を担っている保健所、保健センター、医療機関などがあることを理解する。
16	医薬品の利用			○	医薬品には、主作用と副作用があることを理解し、正しく使用する必要があることを理解する。
17	個人の健康を守る社会の取り組み			○	健康の保持増進や疾病の予防には、人々の健康を支える社会的な取り組みが有効であることを理解する。

## 6 本時の指導

### (1) 指導目標

薬物乱用は、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることを理解し、正しい意思決定や行動選択ができるよう意識づけをする。

### (2) 指導観

知的能力の高まりや自立心の強くなる中学校3年のこの時期だが、社会的な経験や責任ある立場に立つ経験が乏しいため、時には他者の言動に影響を受けたり、家庭環境や、社会環境によって容易に薬物乱用に陥ることをより具体的な事象から理解させたい。また、乱用によって引き起こされる社会的な影響を知ることにより「絶対にNO!と断言するために」どうすればよいかについて考えさせたい。

### (3) 具体の評価規準

評価の観点	A：十分に満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒への手立て
関心・意欲・態度	意欲的に考え、自分の意見を発表したり、仲間の考えを聞こうとしている。	自分の意見を書き出した後、仲間の考えを聞こうとしている。	自分の考えを持てるよう、考える視点を与える。
思考・判断	薬物乱用が、家庭、学校、地域社会に及ぼす影響について理解し、自己の意思決定や行動選択が正しくできる。	薬物乱用が、家庭、学校、地域社会に及ぼす影響について理解し、自己の意思決定や行動選択ができる。	薬物乱用が、家庭、学校、地域社会に及ぼす影響について資料等から読み取れ、自己の意思決定や具体的な行動選択ができるよう支援する。

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点及び評価 ★評価 ◎手立て
導入 10分	1 前時の確認 ・前時を振り返り薬物乱用について確認を行う。 2 学習課題の設定	・前時の学習を振り返り、既習事項の確認をする。 ・薬物乱用は、1回でも乱用となること。摂取によっておこる幻覚症状、依存症状、さまざまな障害について確認する。	◎前時が想起できるよう工夫する。
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">学習課題</div> 3 新聞記事から危険ドラッグ乱用者の7割が20～30代であることを知る。 4 薬物乱用による生活の崩壊、犯罪、影響について知る。 5 追究 (1) 薬物乱用の始まりは、どこからか、その時の心理状態を知る。 (2) 危険な誘いをうまく断る方法を考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">絶対にNOと言うためにどうすればよいか考えよう</div> ・新聞記事から危険ドラッグ乱用者について読み取る。 ・周りの人に与える影響についてどのようなことがあるか家庭、仕事、勉強、対人関係から考えを深める。 ・なぜ、薬物乱用をしてしまうのか4人グループで話し合う。 ・具体的な行動はどうすれば良いかを考えグループ内での意見を交流する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>★意欲的に考え、自分の意見を発表したり、仲間の考えを聞こうとしている。(関心・意欲・態度)</b> </div> ◎話し合いがスムーズに進まないグループへ支援する。 ◎ホワイトボードを用いて活動を進めさせる。 ・活動の注意点をしっかり把握させて活動させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>★NOというための、意思決定を行い、正しい行動選択を見つけている。(思考・判断)</b> </div>
振り返り 5分	6 まとめ 絶対にNOと言うための意思決定をする。	・意思決定は口頭によりグループ内で行う。 ・学習ノートによって、学習内容の確認と振り返りをするよう指示する。 ・次時の予定の確認をする。	◎学習したことが、十分に理解され振りかえることの重要性について話す。

(5) 板書計画

薬物乱用は  回でも乱用

覚醒剤・麻薬・大麻・違法ドラッグ

学習課題 絶対にNOと言うためにどうすればよいか考えよう


どんな行動選択をすると良いのだろうか

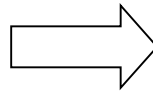
※ 小学校での学習との関連図

第5学年及び第6学年

G 保健

(3) 病気の予防について理解できるようにする。

エ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。



保健分野

(4) 健康な生活と疾病の予防

ウ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。